

## オーディオ実験室収載

### モーツアルト盤を聴く(118)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(118)—

#### 1. 始めに

前報(117)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

#### 2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

試聴システムは仮想アースに加えて、スピーカーアキュライザーSPA-7 が加わっています。さらにスピーカーアキュライザーの接続をバナナプラグに置き換え、電解コンデンサーを追加し、電磁波吸収テープ NRF-005T をバナナプラグに巻いています。音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回はオペラのアリア集の曲です。

**Novalis 150014-1**

モーツアルト アリア集

**Jose van Dam (バリトン)**

**J.P.Wallez 指揮 Ensemble Orchestral de Paris**

#### 3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

Novalis 盤ということで、特性が不明であり、RIAA、正相、第4時定数 High からスタートして条件を変えながら聴いていきましたが、EMI、逆相、第4時定数 High で音の焦点が合い、定位も良さそうです。

収録されているのは、コシファントツテ、魔笛、フィガロの結婚、ドンジョバンニなどからの序曲とアリア集で1987年のライブ公演収録であり、デジタル録音でデジタル録音らしくすっきりした音です。

バリトンの Jose van Dam が、控えめですっきりとした音のオーケストラの前で朗々と歌唱している様子がリアルなステージ感で展開します。

#### 4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E、スピーカーアキュライザーなどの総合的な効果により、オペラのアリアのライブ収録の上記の盤の特徴がよく把握できます。

以上/